



教育に新聞を

2024年度 大分県NIE 実践報告書

大分県NIE推進協議会

目 次

《実践報告》

チャレンジN I E ～楽しく続けて、新聞を身近に～

中津市立小楠小学校 教諭 岩男 拓哉・・・2

「一人でできる」「一緒にできる」「易しくできる」NIE をめざして

～実践指定校1年目の取り組み通して～

大分市立大在小学校 教頭 平山 立哉・・・6

自律を育む新聞活用 ～「先生」から「生徒」へ～

中津市立東中津中学校 校長 田邊 玲子・・・8

状況に応じて『情報を取捨選択できる力』の育成

日田市立前津江中学校 教諭 吉永 奏・・・12

学校教育目標と学力向上を達成するためのNIE 実践

別府市立別府西中学校 教諭 塚田 祥平・・・16

情報を読み取る力と自分の考えを適切に伝える力の育成

佐伯市立佐伯南中学校 教諭 渡辺 容子・・・20

進路学習に活かすN I E

私立大分高等学校・・・24

新聞を開き、未来を拓く ～新聞を通して社会を知り、主体的に探究する生徒の育成に向けて～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 西 さおり・・・28

《2024年度大分県N I E実践指定校》《2024年度大分県N I E推進協議会の活動》・・・32

《N I E実践研究会とN I E子ども会議》・・・33

《大分県N I E推進協議会 会則》・・・34

《2024年度大分県N I E推進協議会役員等》・・・36

【おことわり】この報告書に記載されている所属・肩書は、2024年度当時のものです。

NIE 実践計画・実践状況報告

チャレンジ NIE ～楽しく続けて、新聞を身近に～

中津市立小楠小学校 教諭 岩男 拓哉

1. はじめに

本校の教育目標は、「未知の課題に挑み 仲間と協働して解決しようとするたくましい子どもの育成 ～人間力・総合力～」である。それを受け、「筋道を立てて考え表現する力の育成」を、目指す資質・能力に掲げ、研究を深めている。

昨年度から NIE の実践指定校となり、「チャレンジ NIE ～楽しみながら新聞を身近に～」というテーマで取り組んできた。昨年度、1 年間の実践を通して、「新聞を全く読まない」と回答した全校児童の割合が「60%(8月)」から、「31.9%(2月)」にすることができた。

2023 年度(昨年度)「新聞アンケート」全校児童対象

	毎日読む	週1回以上	月1回以上	全く読まない
8月	3%	15%	22%	60%
2月	8%	39.6%	20.5%	31.9%

成果の理由としては、新聞環境の整備や NIE レクなどの実践により、新聞が以前よりも児童の身近になったことが挙げられる。「新聞は大人が読むイメージ」という思いから、「新聞を使って色々な遊びができて楽しかった。」や「新聞には色々な記事が載っていて凄い。」など、NIE に対して前向きな児童が増えている。

一方で、昨年度の課題は、「点を線にした NIE の実践」である。多忙な教育現場で、見通しや継続性、話し合いながら実践を行うことが非常に難しかった。NIE の目的①～④を達成するためには、特に、継続する必要性を感じた。

そこで、今年度は、「**チャレンジ NIE ～楽しく続けて、新聞を身近に～**」というテーマを設定した。昨年度同様に、**楽しみながら新聞を活用し、「続けること」を大切にしたい**と考えた。

2. 学校としての取り組み

学校としての取り組みとして、(1)目的の共通理解、(2)新聞環境の整備、(3)NIE レク、(4)学期1 実践以上、の4つの柱で実践を行った。

(1) 目的の共通理解

NIE に取り組む意義を伝えるために、〈NIE の目的①～④〉を考え、教職員での共通理解を行った。また、そのような新聞の素晴らしさを発達段階に応じて児童にも伝えるようにした。

〈NIE の目的①～④〉

①社会の出来事に、興味・関心を持たせる。

新聞を活用することで、社会への関心を高めることができる。また、新聞を通して、学校での学びを社会につなげることができる。

②読解力・語彙力・文章力・表現力を育成する。

好きな本だけではなく、新聞を通して様々な種類の文章を多く読み、文章に慣れさせる。優れた新聞の文章を読むことで、文章の構成や記述等の文章力を育てる。

③情報活用力を育成する。

新聞の中から必要な情報を取捨選択し、活用する力を育てる。特に、文章と資料を関連付けて読む力の育成をすることができる。

④新聞を身近にする。

昨年度の「新聞アンケート」から、**約32%**の児童が、新聞を「全く読まない(遊ばない)」という実態が分かっている。NIE の実践を通して、新聞に親しんでほしい。

特に、小学校段階では、中学校や高校、その先の素地として、「**④新聞を身近にする**」ことが重要だと考えた。そこで、今年度は、「**2月の「新聞アンケート」で「全く読まない」と回答する全校児童の割合を20%以下にする**」という重点目標を立てた。

(2) 新聞環境の整備

① 「NIE 掲示板」・「新聞コーナー」の設置



児童がよく通る場所に、NIE 掲示板と新聞コーナーを設置した。「NIE 掲示板」には、子どもが興味を持ちやすそうな時事やクイズなどが載った新聞を掲示した。「新聞コーナー」には、新聞社ごとにその日の新聞を並べ、広げて置くことで児童が注目しやすくなる工夫をした。

② 「今日の一面」・「廊下で新聞」の掲示



5・6年生の廊下に、毎日「今日の一面」(『朝日小学生新聞』と『大分合同新聞』)を掲示した。教員がその一面について話題に挙げたり、写真に撮ってロイロノートで配布したりして、掲示されているだけにならないように工夫した。また、「今日の一面」を見逃した時でも、約1週間分は「廊下で新聞」を読めるようにした。

③ 「新聞BOX」・「新聞ストック」の設置



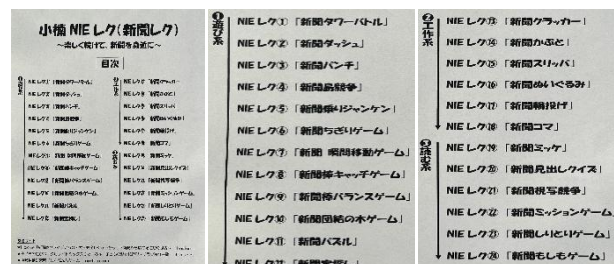
各学級に児童数以上の新聞が入った「新聞BOX」を配布し、新聞を自由に使ってよい環境を整えた。また、図書室前に、「新聞ストック」の場所を設置し、教員がいつでも新聞を取り出せるようにした。

④ 「図書委員会クイズ」の実施



図書委員会が企画した「秋の読書週間クイズ」で、本や新聞を読んで答えるクイズを行った。本の内容に関連した新聞を用意して、図書と新聞を組み合わせた活動にすることができた。クイズを通して、楽しみながら本や新聞を読む児童の姿が多く見られた。

(3) NIE レク



小学校段階では、「新聞は楽しいもの」という感覚を一番大切にしたいと考え、「NIE レク」の実践に取り組んだ。日本新聞協会が発行している『これならできる！新聞活用 NIE 入門ガイド』にも、「まずはゲーム感覚で楽しく新聞と触れ合おう」とあり、楽しみながら新聞を読んだり、遊んだりすることが大切だと感じている。今年度も「小楠 NIE レク」の冊子を全学級に配布し、学年に応じて、「遊び系・工作系・読む系」のレクに取り組むことができている。



(4) 学期1実践以上

昨年度は「チャレンジNIE」のテーマのもと、「学年1実践以上」、新聞を使った活動に挑戦した。今年度は、学期に1実践以上はNIEに取り組み、可能な限り継続して実践に取り組んだ。例えば、「毎週水曜日の課題でNIEプリをして、翌日に丸付け」と決めたことで、継続することができた。「続ける」ためには、「いつするか」を明確にすることが重要だと感じた。

〈1年生〉NIE レク（学活・図工 等）

〈2年生〉NIE プリ・NIE レク（学活・図工 等）

〈3年生〉NIE レク・ハロウィン（学活・図工 等）

〈4年生〉新聞視写・新聞読んだよ WS（書写・課題 等）

〈5年生〉NIE プリ・新聞比較（課題・国語 等）

〈6年生〉NIE プリ・新聞GP・歴史新聞（課題・社会 等）

3. 実践事例（各学年の実践）

〈1年生〉

★NIE レク「新聞乗りじゃんけん」（学活）

新聞に乗り、ジャンケンで負けたら半分に折っていくゲームに取り組んだ。ギリギリまで片足立ちで頑張る姿も見られ、楽しく活動することができた。



〈2年生〉

★新聞紙となかよし（図工）

新聞紙を材料に造形遊びを行った。新聞紙は、折る・丸める・巻く・破るなど、簡単に形を変えることができる。新聞紙で、基地を作ったり、人形を作ったりと、想像を膨らませて活動し、新聞紙と仲良くなることができた。



〈3年生〉

★ハロウィンパーティー（学活）

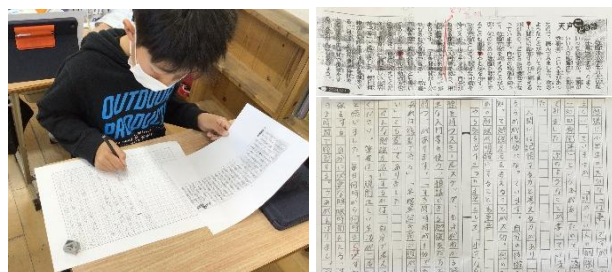
「ハロウィンパーティー」を企画し、3年生全員で、新聞紙を使った仮装を行った。新聞紙で魔女の帽子やマント、怪獣、仮面など、様々な衣装を作ったり、見合ったりして、思い出に残る活動にすることができた。



〈4年生〉

★新聞視写（書写）

書写の時間に、『朝日小学生新聞』の「天声子ども語」の視写に取り組んだ。回を重ねるごとに、書ける文字数が増加し、段落を意識して書くことができるようになった。また、記事の内容に興味を持ち、話し合う姿も見られた。



〈5年生〉

★新聞記事比べ（国語）

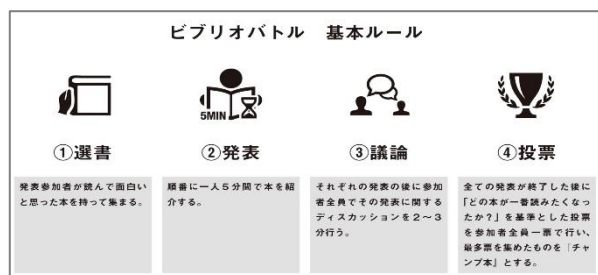
5年生の国語で、新聞の「逆三角形の構成」を学ぶ授業や、全国紙と地方紙の違いを学ぶ授業を行った。パリ五輪の記事を元に、「記事の内容は伝えたい相手や目的によって異なる」ということに気づくことができた。



〈6年生〉

★NIE バトル（国語）

国語の授業で、おすすめの本を紹介し合い、「チャンプ本」を決めるという「ビブリオバトル」を行った。友達が紹介する本のため、「読んでみたい」と思う児童が多く、読書の輪が広がっていく様子が見られた。



（出典）ビブリオバトル公式ウェブサイト

そこで、この実践をNIEに応用したいと考え、「NIEバトル」を企画した。これは、おすすめの新聞記事を紹介し合い、「チャンプ記事」を決めるという活動である。国語の学習であるため、「新聞を身近にする」だけでなく、『小学校学習指導要領解説国語編』〔思・判・表〕A話すこと「ウ資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。」をねらいとした。

【単元計画】全4時間

【1時間目】：情報の収集

→めあて みんなに紹介したい新聞記事を選ぼう。

【2時間目】：考えの形成

→めあて スピーチの構成を考えよう。

【3時間目】：表現

→めあて ポイントを意識して、スピーチ練習をしよう。

【4時間目】：表現・共有

→めあて NIEバトルで、魅力的なスピーチをしよう。



単元の4時間目を「NIEバトル」の本番とし、その実践を広めるために、互見授業を行った。授業後には、選んだ新聞をロイロノートで共有し、友達が選んだ新聞を読めるようにした。「自分のおすすめの記事を紹介できて楽しかった」や「友達の興味のある新聞記事が知れて面白い」など、楽しく新聞で学習することができた。

4. 児童生徒の変化や感想、今後の課題

今年度のNIE活動のテーマ「チャレンジNIE～楽しく続けて、新聞を身近に～」の重点目標、「2月の「新聞アンケート」で「全く読まない」と回答する全校児童の割合を20%以下にする」ことができたのかを振り返るために、「新聞アンケート」を実施した。

結果は、「新聞を全く読まない」と回答した全校児童の割合は「31.9%（昨年度2月）」から、「24.5%（今年度2月）」にすることができた。しかし、設定した重点目標は達成できなかった。

	毎日読む	週1回以上	月1回以上	全く読まない
昨8月	3%	15%	22%	60%
昨2月	8%	39.6%	20.5%	31.9%
今2月	8.4%	34.4%	32.7%	24.5%

達成できなかった原因として、まず、重点目標の繰り返しの周知・徹底ができていなかったことが考えられる。年度当初や夏の中間実践報告後には、会議で話題にあげることができたが、多忙な業務からNIE実践について話す時間をとることができなかった。また、根本の「新聞の魅力」を伝えきれずに、NIEへの意識を向けさせられなかったことも原因にある。

解決策としては、「いつするのか」の見通しを持ち、「なぜするのか」の目的を明確に伝えることが重要だと考える。そして、NIE担当・研究・学年部で、組織的に取り組んでいく必要があると感じた。

2年間のNIEの実践を振り返って、新聞を全く読まなかった児童が、新聞に興味を持つ姿を多く見ることができた。「新聞アンケート」の感想記述欄には、「新聞を使って色々な遊びができて楽しかった。」や「知らなかったことを新聞で知れるので、他の記事も読みたい」など、NIEに好感を抱く内容が多く見られた。

今後もこれまでの実践の中で、効果的だと感じた「NIEレク」「NIEプリ」「新聞視写」「NIEバトル」などの活動を実践し、みんなで「楽しく続けて、新聞を身近に」していきたいと思う。

「一人でできる」「一緒にできる」「易しくできる」NIE をめざして

～実践指定校1年目の取り組みを通して～

大分市立大在小学校 教頭 平山 立哉

1. はじめに

(1)学校の概要

大分市北東部に位置し、昨年度まで、児童数1000人を超える大規模校だった。

本年度、大在東小学校との分離を終え、児童数は2月1日現在で472名である。

「自立:一人でできる」「協働:一緒にできる」「思いやり:優しくできる」児童の育成を目指し、家庭や地域との連携の下、子どもたちが互いに学び合う学校をめざしている。

2. 1年目の実践

(1)学校図書館支援員との連携

実践指定校に認定された旨を、学校図書館支援員に知らせ、協力を要請したところ、図書室入り口に、朝日小学生新聞を閲覧できるコーナーを設置してくれた。



一学期、設置当初は本校児童が新聞を広げている姿をほとんど見かけなかったそうである。

しかし、二学期以降、図書室で以下の変化を発見できた。

- ・児童を対象とした新聞を広げる姿が見られるようになった。一般紙は、5～6年生を中心に、記事を読んでいる姿が見られるようになった。
- ・記事をデジタルスクラップ（気になった記事を写真で保存）する活動は、とても楽しそうだった。写真を撮りながら、記事に目を通している姿が見られた。

(2)各学年及び特別支援学級での実践

1年生…新聞紙を用いての窓のふきそうじ（9月～）。新聞記事中の「の」の字さがし（10月～）。算数科「長さ」の学習で、新聞紙をちぎっての長さ比べ（11月）。

2年生…新聞ちぎり競争（11月）。社会見学後のまとめ新聞の制作（11月）。

3年生…毛筆の作品ばさみを作成（9月～）。学校まつりでの学級のお店の遊び道具（ボール等）の製作（10月～）。社会科「むかしの暮らし」の学習（洗濯）で、床の保護に新聞紙を使用（12月）。



4年生…算数科単元「面積」の学習で、1㎡の正方形を新聞紙で作成（10月）。社会見学後のまとめ新聞の制作（11月）。起承転結の指導に4コマ漫画を利用。その後、物語文の構成を漫画を参考に起承転結にまとめる（12月）。

5年生…国語科単元「新聞を読もう」の学習で、全国紙、地方紙、農業新聞の一面記事の読み比べ（9月）。総合的な学習の時間「米作り」の学習で、新聞紙を材料にかかしを制作（9月）。新聞3紙の記事の読み比べ。衆議院選挙についての記事の相違を発見（10月）。学校まつりでの学級のお店の遊び道具（新聞紙をつなげたもの）の制作（10月～）。新聞紙を用いての窓のふきそうじ（11月～）。社会科単元「情報をつくる、伝える」の学習で、記事の内容及び一面記事となる情報について考察（12月）。

6年生…社会科「好きな時代の歴史新聞」制作（9月～）。学校まつりでの学級のお店の遊び道具（もぐらたたきハンマー）の製作（10月）。新聞紙を用いての窓のふきそうじ（12月～）。

特別支援学級…新聞を丸めて「さつまいも」を作り、教室の装飾に活用（9月～）。国語科単元「新聞を読もう」の学習で、オリンピッ

ク及びパラリンピックの記事から気になるものを選び、内容や工夫をまとめる（9月～）。

「新聞じゃんけん」など新聞紙に親しむ活動を導入（9月～）。新聞紙を用いての窓のふきそうじ（10月～）。新聞紙で輪投げの輪を制作。親しむ活動を実施（10月）。算数科「単位当たりの量」の学習の導入の過程で、その経験の想起（10月）。5年算数科「割合」の学習で、広告チラシをヒントに、児童が文章問題を作成（11月）。授業参観での消しゴムハンコづくりで、新聞紙を下敷きに利用（11月）。新聞紙で、紙飛行機や紙鉄砲を制作（11月）。国語科単元「意見文」の学習で、新聞記事を題材探しに利用（12月）。

(3)「実践推進級」の実践

名称を、実践指定級から実践推進級に変更。

いきなり全校でN I Eに取り組むのではなく、二学期から、2年生、4年生、6年生に1学級ずつ「実践推進級」を設置して活動を実施し、そこを中心にN I Eが全校に広がっていくよう計画した。



2年生と4年生では、主にデジタル新聞スクラップを行った。6年生では、新聞ワークシートに取り組んだ。

推進級担任からは「子どもたちは、楽しそうに活動していた。」「子どもたちから、楽しかった。役に立ちそうだという声が聞かれた」という報告を受けた。

推進級の隣接学級で、同様の活動を実施する学級も増加している。

3. 成果と課題

(1)成果

N I Eとは記事の読解だけの活動ではないことを理解し、実践を試みる職員が増えた。

また、数は多くはないが、新聞を手に取り、目を通す児童が現れたことをうれしく感じている。

(2)課題

実践指定校として、学校全体でN I Eに取り組み、効果を上げていくための課題は、以下の3点である。

① 教職員や児童に、効果を実感させること。

言語能力、情報活用能力、批判的思考力…とN I Eで育成できる力は多岐にわたるが、特筆すべきは、社会事象に興味を持ち、社会とつながる力の基礎を培える点である。現行学習指導要領の「よりよい学校教育がよりよい社会をつくる」という理念の具現化に有効であることに教職員が気付くとともに、児童が生涯に渡って自分の学びの深まりに活用できると実感できたとき、実践への意欲が高まると考える。

② カリキュラムを作成すること。

教職員や児童が効果を実感しても、実践可能なカリキュラムがなくては、継続しない。

週時程（N I Eタイム）への位置づけや教育課程にN I Eを組み込むことが理想である。来年度、いつ、何年生の、どの教科（領域）で、どんな活動を行うのか、児童の発達段階に応じたカリキュラムを作成することが急務である。

③ 運営組織を構築すること。

カリキュラムができれば、実行するための組織が必要である。

円滑な実践遂行のため、本校学力向上担当（及び研修部）を中心に、いつ、誰（教職員）が、何を行うのか（準備するのか）明確になる組織を構築しなければならない。

以上の3点に留意しつつ、「一人でできる」「一緒にできる」「易しくできる」N I E実現に向け、2年目の取り組みを継続していく。

自律を育む新聞活用

～「先生」から「生徒」へ～

中津市立東中津中学校 校長 田邊 玲子

1. はじめに

(1) 本校の概要

①生徒数 252名 教職員 31名

②学校の教育目標

自ら考え、他者と協働し、主体的に行
動する生徒の育成

③学校スローガン

笑顔生まれる東中生 ～「自律」～

④育成を目指す資質・能力

人間関係・社会形成能力

～表現力・主体性・対話力～

(2) これまでのNIE（2011年度より）

①初めてのNIE 実践校（2011、12）

・校内研究との関連

・国語科、社会科教育課程との関連

②学校図書館からのNIE（2014～）

・学校図書館司書のリーダーシップ



・新聞スクラップの充実

・新聞閲覧台の設置



・新聞記事掲示の工夫



2. 学校としての取組

【これからのNIE】（2024～）

①「自律」を育むツール

②「見る」「読む」「書く」「創る」

③教師の手から生徒の手へ

④「組織的」「計画的」から「自由に」へ

3. 実践事例

①モデルを示す

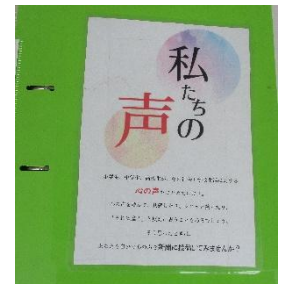
○切り抜き新聞（どうやるの？）

・大分合同新聞社の協力

・校内24か所に掲示



○新聞投稿（いつか、私も・・・）



②4、5月

○「お気に入りの記事」を紹介しよう

- ・自習時間を使い、全学年全クラス、1回以上取り組む。(校長と一緒に)
- ・取り組みの様子(写真)を校内のあちこちに掲示。
- ・新聞活用のイメージが広がる。



③6、7月

○全校で、「切り抜き新聞」作成



○校内のあちこちに掲示



④新聞に意見文投稿

○掲載分は、すべて校内掲示



⑤1年生(R6 新聞活用、中心学年)

○新聞タイム

- ・2学期から、不定期(週1回程度)
- ・校長による新聞記事の読み聞かせ
- ・記事を読んで意見・感想を書く
- ・意見・感想の校内掲示



⑥「新聞」で校内環境美化推進

○階段踊り場・・・「もう読んだ？」コーナー



○芸術・文化コーナー



○「新聞で学ぼう」コーナー



⑦少しずつ「生徒会」の手に・・・

○全校生へのメッセージを「切り抜き新聞」で



⑧新聞を創る

○取り組みのまとめを「壁新聞」で



○今年の抱負を「はがき新聞」で



4. 児童・生徒の変化や感想、今後の課題

①生徒の変容

- ・新聞本体を知ることができた。
- ・「面倒くさい」から「なるほど」。
- ・難語句や文章が読めるようになった。
- ・国語の力に役立つかも。

②今後の課題

○「先生」から「生徒」の手へ

- ・授業で使ってください。
- ・この記事を「読み聞かせ」てください。
- ・私が「読み手」になります。
- ・こんなテーマで「切り抜き新聞」創ってみました。
- ・生徒会行事として「新聞活用」計画します。

○課題は、とても「楽しい事柄」でもある。



生徒から生徒へ

状況に応じて『情報を取捨選択できる力』の育成

日田市立前津江中学校 教諭 吉永 奏

1. はじめに

本校は、全校生徒7名(1年生1名、2年生3名、3年生3名)の小規模校である。学校の教育目標「ふるさとに誇りを持ち 主体的に考動し たくましく生きる生徒の育成」を達成するための方策の1つとしてNIEの取組を進めている。

NIEの取組で期待される力は以下の通り。

- ①多様な文章や資料を読み解く力
- ②社会に目を向け、考える力
- ③信頼できる情報を取捨選択できる力
- ④表現力・説明力

2. 1 学期の実践状況

(1) 1 学期の取組

①新聞コーナーの設置

- ・廊下に新聞が読めるコーナーを設置。
- ・新聞記事の一面を比較できるように掲示。



②週時程「NIE 活動」の時間の設定

- ・毎週金曜日に15分間設定。

③出前授業の実施

- ・生徒向けの新聞活用講座(5/30)の実施。

【生徒の感想】

◇ぼくはニュースにあまり興味がなく、あったとしてもインターネットで見る人が多いです。だけど、インターネットの中には

「うそ」の情報があるので、たまには新聞を読んだりして、本当の情報を得たいと思いました。(2年生)

◇私は2回目のNIE講習だったけど、新しく知ることあったし、お弁当の例などが面白かったし、改めて新聞を読むことが好きになれたのでよかったです。新聞は興味のあることもないこともすぐに頭に入れることができるけど、インターネットだと調べる時間がかかったり、うその事も信じやすくなってしまったりすることを知ったので、これから新聞を積極的に読んでいきたいと思いました。(2年)

◇新聞をよく読む方ではないけど、NIEの活動を通して新聞への興味や関心が高まったので、昨年から新聞に関わる機会が増えました。～(略)～自分も少しずついいので、自分が興味のある記事から読み始めていきたいです。また、その記事を読む過程で、自分が興味のある記事だけでなく、新たに興味を持てる記事との出会いもあるかもしれないので、新聞を読むことを通して様々な情報と関わっていきたいです。(3年生)



④はがき新聞の作成

- ・全校行事「釈迦岳登山」を通しての感想をまとめて発信する活動として「はがき新聞」を作成。

(2) 1 学期の実践の成果と課題

○成果：生徒アンケートの自己評価が全体的に高くなっていた。

▲課題：「③情報を取捨選択できる力」の評価が低かった。

生徒の関心が高いNIE活動として「切り抜き新聞」が挙げられたので、2 学期以降取り組んでいく。

3. 2 学期、3 学期の主な実践について

(1) 教職員向け新聞活用講座の実施 (8/9)

目的：学校現場での新聞活用方法について学び、NIE 教育を推進する。

内容：本校の教職員からでた NIE 教育を推進するにあたっての疑問や困りについて NIE アドバイザーに助言していただいた。

講座の内容は「教科の中でどのように取り組んでいくかなどの具体例」「短時間でできる取り組み」「意見交流する際の記事選びのコツ」「実践指定校の期間が終わった後の取り組み」などで依頼した。

【研修後アンケート】

①今日の研修で学校現場での新聞活用方法について、今後の参考になりましたか。
(参考になった 100%)

②感想

◇NIE に対する深い造詣からの具体的な実践例を示していただき、大変参考になりました。さっそく帯時間に使えそうです。

◇他の学校の取組事例や、その後の様子を知ることができ、貴重な研修でした。私自身前津江に着任してから新聞を読む機会が増えたため、生徒と新聞の内容について話題にできたらと思います。

◇新聞記事を使った具体的な実践を知るこ

とができて良かった。また、実践指定校終了後の取組を知ることができ、来年に向けた見通しが立った。

◇理論や考え方、取り組み事例をコンパクトにわかりやすく説明していただき、今後につながるものだった。



(2) チャレンジ発表×NIE

目的：自分の考えや思いに応じて情報を取捨選択し、理由や根拠を添えて発表(表現)できるようにする。

内容：「オリンピック・パラリンピックで心に残った〇〇」というテーマで、生徒は新聞記事を選ぶ。理由や根拠を添えて、情報を整理し(まとめて)、発表する。今回は毎月生徒集会の中で行っているチャレンジ発表とテーマを合わせ、2～3 人ずつ発表を行った。

【活動後自己評価の結果】

①アンケートから

・「自分の考えや思いに応じて、情報を取捨選択する(新聞記事を選ぶ)ことができた」

(よくできた 43%、できた 57%、あまりできなかった 0%、できなかった 0%)

・「理由や根拠を添えて、情報を整理する(記事をまとめる)ことができた。」

(よくできた 86%、できた 14%、あまりできなかった 0%、できなかった 0%)

・「聞いている人に自分の考えや思いが伝わるように、工夫して発表することができた。」

(よくできた 43%、できた 57%、あまりできなかった 0%、できなかった 0%)

②感想

◇自分の伝えたい内容の新聞がなかなか見つからなかったけど、ぼくが一番心に残った車いすラグビーの記事を見つけることができて、いい新聞を作ることができました。

(1年生)

◇僕は今回の「チャレンジ発表×NIE」に取り組んで、以前よりもテレビを見る機会が増え、オリンピックやパラリンピックのすごさ・おもしろさを発見することができてよかったです。また、新聞を作るときに、記事を取捨選択することができたのでよかったです。(2年生)

◇この取り組みを通して、新聞と関わる機会が増え、自分が欲しい情報を前回より早く集めることができました。また、聞く側の人がわかりやすいように情報を整理することができました。(3年生)

③成果と課題

○成果：自己評価の結果から、「自分の考えや思いに応じて情報を取捨選択する力」や「理由や根拠を添えて発表(表現)する力」が高まったといえる。また、社会の出来事に興味を示すきっかけをつくることができた。

▲課題：意見交流を行う時間をどのように設定したらよいか。

(3) チームでつくる切り抜き新聞

目的：自分たちで「課題(テーマ)の設定」をし、必要な「情報の収集」・「整理・分析」を協力して行い、相手に伝わるような「まとめ・表現」ができるようになる。

内容：2～3人チームになって、切り抜き新聞を作成する。チームはくじ引きで決定(3チーム、学年は混合)。2月に

校内でコンテストを行い、生徒と教員で採点をし、最優秀賞を決定する。



(4) その他の実践

- ・コラム読書【国語科】
- ・新聞記事から学習課題を立てる【社会科】
- ・回し読みをして感想発表
- ・話題性の高い(または注目して欲しい)記事を廊下に掲示



4. 実践の振り返りと今後の展開

(1) 生徒アンケート

4月と翌年1月に生徒に、NIEの取組についてのアンケートを実施した。結果は以下(資料1参照)のとおりである。すべての力において、生徒の自己評価にプラスの変化が見られた。NIEの取組を通して、期待される力の向上を生徒自身が感じていることがうかがえる結果となった。

(2) 教職員アンケート

1月に、教職員に対してNIEの取組についてのアンケートを実施した。結果は以下(資料2参照)のとおりである。全教員が、期待される力の育成にNIEの取組が貢献すると考えていることがわかった。また「情報を取捨選択できる力」については全員が肯定的評価をしており、その理由として「発表に向けて、自分

の表現したい主張に合わせて記事を選ぶことができたから。」や「一人ひとりの視点で情報の重要度の軽重を判断したり、考えを持ったりすることができたから。」などの意見が挙げられた。

(3) 今年度の取組の成果と課題、今後の展開

① 今年度の取組の成果

- ・継続した取組により、情報収集能力と情報活用能力が向上した。
- ・自分の考えを持ち、それを自分の言葉で伝えようとする力が向上した。
- ・教科などでも活用できる。

② 今年度の取組の課題

- ・交流時間をどのように確保するか。
- ・疑問に思ったことを調べる時間をどう確保するか。
- ・取組の成果をどのように発信していくか。

③ 今後の展開

3年間の NIE 取組を通して、意図的ではあるが生徒が新聞に触れる機会を多くつくることができた。ただ、活動には時間の確保が必須であり、今後の学校生活の中でどう時間を生み出していくかが課題である。今年度は教科での活用や、他の取組とのコラボレーションなどが実現でき、「NIE」という言葉も生徒に浸透してきたと感じる。生徒が身に着けた力を今後の活動にどう活かすか、またよりよい学習方法がないか、教職員で意見を交わし、考えていきたい。

資料 1：NIE(教育に新聞を)の取組についての生徒アンケート

※()内数値は 4 月から翌年 1 月での変化した値

(1) 2 学期を終えて、NIE の取組で期待される力は高まったと思いますか。4 段階であてはまる

ところに丸をつけてください。(A：とても高まった、B：高まった、C：あまり高まらなかった、D：高まらなかった) (人)

期待される力	A	B	C	D
①多様な文章や資料を読み解く力	5 (+5)	2 (-4)	0 (-1)	0
②社会に目を向け、考える力	4 (+3)	3 (-2)	0 (-1)	0
③情報を取捨選択できる力	5 (+4)	1 (-3)	1 (-1)	0
④自分の考えを理由や根拠を添えて表現する力(表現力・説明力)	4 (+1)	3	0 (-1)	0

資料 2：NIE(教育に新聞を)の取組についての教職員アンケート

(1) NIE の取組で期待される力の育成に、NIE の取組(1 学期～3 学期現在まで)はどのように貢献すると思われますか。(A：大いに貢献すると思う、B：貢献すると思う、C：貢献しないと思う) (人)

期待される力	A	B	C
①多様な文章や資料を読み解く力	5	3	0
②社会に目を向け、考える力	7	1	0
③情報を取捨選択できる力	6	2	0
④自分の考えを理由や根拠を添えて表現する力(表現力・説明力)	5	3	0

学校教育目標と学力向上を達成するためのNIE実践

別府市立別府西中学校 教諭 塚田 祥平

(1)はじめに

別府西中学校は、山の手中学校と浜脇中学校が統合するかたちで誕生した創立4年目の新設校。別府ケーブルラクテンチの麓に位置する。学校教育目標は「別府を愛し、夢を持ち自ら学ぶ生徒の育成」で、学力向上が課題として挙げられる。

令和6年度の9月からNIE実践指定校となり、学校教育目標と学力向上を達成するために、国語科と社会科を中心に取り組みを進めてきた。実践を大きくA～Cの3つの部門に分けて紹介していく。

(2)実践A 環境整備

①「NIEコーナー」の設置

本校の1年生(123名在籍)を対象に1/17(金)に行なったNIEに関するアンケートでは、新聞を定期購読している家庭の割合は、23.6%で、4家庭に1家庭ほどであると分かった。また新聞を定期購読している家庭でも、自ら新聞を読んでいる生徒は、ほとんどおらず、新聞に触れたことのない生徒のほうが圧倒的多数派であることが明らかになった。

そこで、中1から中3の各フロアに「NIEコーナー」を設置し、毎朝、新聞を置くことにした。各紙1部ずつ届くので、最新版を3年生のフロアに置き、それを翌日には2年生のフロアへ、翌々日には1年生のフロアへとスライドさせていく形式をとった。



②「今日の一面トップ記事 読み比べ」コーナーの設置

毎朝、生徒が登校時に必ず通る1階から2階への踊り場の掲示板に「今日の一面トップ記事 読み比べ」コーナーを設置し新聞各紙を読み比べられるようにした。



(3)実践B 対外的な取り組み

①「いっしょに読もう!新聞コンクール」への出品

令和6年実施の第15回「いっしょに読もう!新聞コンクール」には、私が国語の授業を担当している1年生の書いた作品を出品し、結果として、学校奨励賞をいただくことができた。



②大分合同新聞「私たちの声」への生徒 作文の投稿

本校の学校教育目標である「別府を愛し、夢を持ち自ら学ぶ生徒の育成」に絡めて、「将来の夢や今後の目標」というテーマで生徒に作文を書かせ、そのうちのいくつかを大分合同新聞で毎週水曜日に展開されている「私たちの声」コーナーに投稿した。

(4)実践C 校内における取り組み

①毎日課題に NIE を盛り込む

私が授業を担当する 1 年生は、入学当初、学習習慣の身についている生徒は多くなく、家庭での学習時間も全国平均を下回っていた。そこで、そういった状況を改善すべく、10 月から国語科の取り組みとして、毎日課題をスタートさせた。

具体的には、表面に、漢字の「読み」あるいは「書き」の問題を 15 問載せ、裏面に「NIE コーナー」として、新聞記事を読ませ、その感想を生徒に書かせるというものだ。

生徒から提出された感想は、私が添削をして当日中に返却するサイクルをつくり、2/18（金）時点で 121 回の毎日課題を出し続けている。

<毎日課題(表面)>

① 漢字の読み書き ② 漢字の読み ③ 漢字の書き ④ 漢字の読み ⑤ 漢字の書き ⑥ 漢字の読み ⑦ 漢字の書き ⑧ 漢字の読み ⑨ 漢字の書き ⑩ 漢字の読み ⑪ 漢字の書き ⑫ 漢字の読み ⑬ 漢字の書き ⑭ 漢字の読み ⑮ 漢字の書き	① 本をいそいで読む ② 本をいそいで読む ③ 本をいそいで読む ④ 本をいそいで読む ⑤ 本をいそいで読む ⑥ 本をいそいで読む ⑦ 本をいそいで読む ⑧ 本をいそいで読む ⑨ 本をいそいで読む ⑩ 本をいそいで読む ⑪ 本をいそいで読む ⑫ 本をいそいで読む ⑬ 本をいそいで読む ⑭ 本をいそいで読む ⑮ 本をいそいで読む
--	---

<毎日課題(裏面)>

感想 ひと 奥深く読む喜びは大きい 大分合同新聞 2023年	国語科 毎日課題 (裏) NIE ※次の記事を選んで、なるほどと思うところを線を引いて、感想を書いたことを書きなさい。
---	---

(i)新聞記事を使った課題の良さ

「NIE コーナー」の初回では、大分合同新聞の「ひと」欄からカヌーを指導する高田高教員についての記事を取り上げ、その後、バスケットボール選手の記事、LGBTQ の記事、旧優生保護法に関する記事、かぼすブリの記事などと続けた。

カヌーの記事には「カヌー王国大分」という言葉が出てくるのだが、生徒には大分県のカヌーの競技力が高いことを知らなかった者がほとんどで、「大分県民として誇らしい。」といったコメントが目立った。大分県内や別府市内のローカルニュースを紹介することで、生徒が地域を知り、その魅力に気付くきっかけとした。そして、それが学校教育目標の「別府を愛し」の部分に通じてくると考える。

また LGBTQ の記事については、生徒それぞれの関心度かなり差のあるテーマだったが、新聞記事が共通の話題となったことで、隣席の生徒同士での会話が弾んでいる様子がみられた。

さらに、かぼすブリの記事では「かぼすブリが、かぼすを餌にしているなんて知らなかった。」という感想が多く、大人(教師側)が常識として捉えているものも、子ども(生徒)にとっては未知の情報であり、このくらいは分かっているだろうと決めてかかることの危うさを痛感した。

(ii)生徒の主体性を育むための工夫

毎日課題をスタートさせた当初は、担当教師が全ての記事をセレクトしていた。しかし、幅広い分野の記事を選ぼうとしても、どうしても国語の教師である私が選ぶと「ことば」や「教育」に関するテーマに偏ってしまう傾向があった。

そこで、途中から、授業の中で生徒に記事を選ばせ、「〇〇さんによるセレクト」と記載して、毎日課題を出す形式に変更してみた。すると、生徒は、自分が選んだものが採用されることに喜びを感じたり、他の生徒が何を選ぶのかに興味を持つようになったりして、毎日課題が「やらされるもの」から「自らやるもの」に変わっていくプラスの変化が生まれた。

現在は、教師によるセレクトの記事と生徒によるセレクトの記事を半々くらいの割合で展開している。

また、生徒が選んだ記事が毎日課題として配付される日には、その保護者に電話連絡をして、本校が NIE の実践指定校になっていることや、毎日課題として新聞記事を扱っていること、お子さんがど

んな記事を選んだのか家庭で話題にしてほしいといったことを伝え、保護者の方々の協力を求めながら、活動が充実したものになるように努めている。

<生徒セレクトによる毎日課題(裏面)>



(iii)書く力を高めるための工夫

毎日課題裏面の「NIE コーナー」では、生徒に新聞記事を読ませた上で感想を書かせるのだが、当初は、新聞記事を右側に貼付し、その左側に感想を記入するための四角い枠を設けた形式のプリントを使っており、感想を記入する際の文字数については指定していなかった。

すると、楽をしたい生徒を中心に「すごかった。」などと一言感想を書くだけで課題を提出してくるという状況が生まれた。

それでは書く力は付かないし、そもそも記事をしっかりと読んでいるかも掴めない。元茨城県立並木中等教育学校校長の中島博司氏の発案した「R80」(次の3つの条件で短作文を書くもの。①80字程度で書く。②2文で書く。③2文目の文頭に接続詞を使う。)を感想の記述欄に取り入れることとした。そして、それと同時に、国語の授業のなかでも、毎時間、「R80」の取り組みを始めた。

ちなみに「R80」は、全国各地の多くの小・中・高校で取り入れられ、成績アップを実証しているアクティブ・ラーニングの方法の1つである。

国語の授業(中学1年生は1週間あたり4単位時間の配当)では、「私の趣味」、「ありがとう」、「虫」、「人間は生きているだけで偉いのか」といった様々なテーマについて、その場で、短作文を書かせ、私が添削して返却することを繰り返し、毎日課題では、新聞記事を読んで、その感想を「R80」形式で書かせることを続けている。

したがって、生徒は、1週間のうちに、授業×4、毎日課題×7の合計11枚、「R80」形式で短作文を書くことになる。これを習慣化していくことで、生徒の書くことへの抵抗感を少なくし、自分の意見を持つことやそれを表現することに対する自信を生むことができると考える。

実際に1/10(金)実施の別府市学力調査の1年国語で出題された条件作文(160字～200字)では、9割近くの生徒が解答欄を埋めることができている、その効果を実感しているところだ。

(iv)自ら工夫した取り組みを実践する生徒の出現

毎日課題をスタートさせてしばらくすると、こちらから要求しているわけでもないのに自主的に工夫を凝らした取り組みを実践する生徒が出てきた。それは、新聞記事を黙読するだけでなく音読することで内容をより深く理解しようとする者や新聞記事の感想を書き終えるまでの時間を測って日々の記録を付け、自分の書く速さを上げようとする者などである。

そういった能動的な取り組みをしている生徒を国語の授業や学年集会で紹介することで、その後、多くの生徒が同様の取り組み方をするようになっていった。

②生徒によるNIEの授業づくり

2/8(土)のNIE子ども会議に出席する代表生徒が自身の所属するクラスで、NIEの授業を構想し、実際に授業を行なった。具体的な授業の展開を次に示す。

大分合同新聞掲載の記事①認知症患者の感覚を別府市内の小学生がVRを使って疑似体験した、②杵築の小学校に在日アフリカ人ネットワーク(ADNJ)の方々が来校して交流した、③被災地の復興支援に力を注ぐ大分大学の学生団体の代表へのインタビューの3つを読み比べたあと、班毎に意見交流させ、各班の代表者に、班として、どの記事を最も気に入ったかを発表させる。※全て生徒自ら考案した。

また2/8(土)のNIE子ども会議に向けて、1年生のクラス代表を集めて、NIEについての座談会を行なうなど準備をしてきたので、今後、そういった生徒たちを中心として、生徒自らNIEの授業を構想し実践させる機会を多く作っていきたい。

(5)教職員への波及

令和6年度9月からNIE実践指定校となった本校の実践担当者として、私にできることをいろいろと試してきたのだが、「自ら学ぶ」生徒を育成しようとする教職員が主体的に取り組めないのであれば、実践の効果は薄まると考え、敢えて周囲の教員にはNIEの取り組みへの協力を求めることはしてこなかった。

ただ、そんななかでも、2年生を担当する社会科のある教員が、授業のなかで新聞記事を生徒に読ませ、「R80」形式で生徒に感想を書かせる取り組みを実践してくれた。また、私と同じ1年生の担任をしている教員の1人から、生徒と一緒に毎日課題をやりたいから自分の分も添削してほしいと依頼された。このように少しずつではあるが、NIEの取り組みを校内の教職員にも広げることができていて、担当者として嬉しく思っている。

(6)生徒の声

実践から約4か月後の1/17（金）に本校の1年生を対象に行なったNIEに関するアンケートでは「NIEの活動で国語力が高まると思いますか。」の質問に対して、100%の生徒が「そう思う」と回答した。

そして、その理由を尋ねると、以下のようなものが見られた。

- 実際に作文をすらすら書けるようになったり、テストの問題をどんどん解けるようになったりして、読むことや書くことへの抵抗感がなくなり、自分に自信が付き、学力向上を実感しているから。
- 毎日様々なジャンルの文章をたくさん読むことで、それが当たり前の習慣となり、集中力が身に付いたり、意味の分からない言葉を自分で調べたりすることで、語彙が豊富になり、力が付いてきたと思うから。
- 文の作り方を文章のプロ（新聞記事を書いている人）から自然と学べるのが嬉しいし、毎日、先生が添削をしてくれるので、それを意識して修正すれば、自分でも良い文章が書けるようになると思うから。

(7)保護者の声

1/10（金）に保護者向けに、アンケート依頼をし、別府西中学校のNIEの実践に関する受け止めを伺った。保護者の方々からいただいたコメントをいくつか紹介する。

- 子どもから「新聞って面白い!」という言葉が聞けた。
- 新聞記事を読んで気になったことを子どもが話してくれることが、何度かあった。
- 反抗期の息子とも新聞をきっかけに会話することができている。
- 毎日課題に楽しんで取り組んでいる様子を見ることができ、親として嬉しく思っている。
- 家で購読している新聞の気になった記事を子どもが自ら読むようになった。
- 読むということへの苦手意識がなくなった様子。日々の積み重ねの大切さを感じる。
- 新聞をきっかけに読書を楽しむようになり、家庭でも本を読む姿をよく見るようになった。
- 新聞から時代の流れを感じ、自分の興味の引くものを自然と把握することができるので、それが今後の人生を豊かにしていくと思う。
- とある百歳の方に健康の秘訣を尋ねたところ「毎日欠かさず新聞を読むこと」とおっしゃった。これも活字の力といえると思う。

(8)今後の展望

令和7年度も引き続きNIE実践指定校としての取り組みを続け、生徒の様々な力を高め、引き出していきたい。

情報を読み取る力と自分の考えを適切に伝える力の育成

佐伯市立佐伯南中学校 教諭 渡辺 容子

1. はじめに

本校は教育目標に「持続可能な『未来の創造』に向け、自ら考え、仲間と学びながら自己実現をめざす生徒の育成」を掲げ、「課題や問いの意図の把握と課題解決に向けた情報収集スキルの習得」「協議しながら課題解決に向かうための手立てと考えや意見を伝える力の育成」「自己目標の実現に向けて主体的に追求し続ける意欲と態度の育成」を目指している。

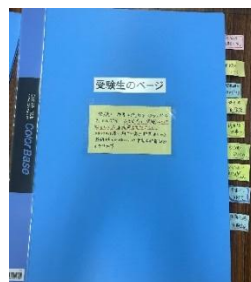
今年度の重点目標の1つに「情報収集を基にした課題解決能力と考えや意見を伝える力の育成」がある。そこで、NIEの取り組みを通して、課題解決のために情報を収集しそれを整理分析する能力と、課題に対して自分の意見を持ちそれを適切に伝える力を育てたいと考え、今年度の実践のテーマを『情報を読み取る力と自分の考えを伝える力の育成』に設定し実践してきた。

以下に本年度の実践を紹介する。

2. 学校全体としての取り組み

(1) 環境整備

①新聞コーナーの設置(図書室・職員室前廊下)
・学校司書とボランティアの協力を得ながら、新聞記事をテーマ毎や記事の特集毎に集めてもらい、生徒が学習するうえで調べやすい環境を整備した。



(2) 毎週水曜日の朝学習(15分間)を利用したのコラム学習の実施。

(内容)

- ①読売新聞社 読売新聞ワークシート通信
・記事を読み、要点を抜き出し、自分の考えやアイディアを書く活動を行った。
- ②大分合同新聞社 大分合同新聞ワークシート
・地域に関係のあるワークシートを使って、自分の考えやアイディアをまとめる活動を行った。
- ③朝日新聞社・朝日中高生新聞
・『天声人語』などを利用した課題作文・視写などを週替わりで行い、新聞の内容を読み取ったり、自分の考えを書いたりする活動を行った。(ノーベル平和賞のスピーチの抜粋など)

(成果と課題)

2学期末の生徒による学校評価アンケートでは、「コラム学習で、読み取る力や表現する力がついた」という項目に対して

- | | |
|-------------|-------|
| ①あてはまる | 49.7% |
| ②ややあてはまる | 36.2% |
| ③あまりあてはまらない | 11.4% |
| ④あてはまらない | 2.7% |

という結果であり、全体の8割以上が少しずつ力がついたと考えている。しかし、1・2年生では③④の割合が高く、学年の20%近くがまだ力がついていないと考えている。新聞記事の「読み方」を学習する必要性を感じた。

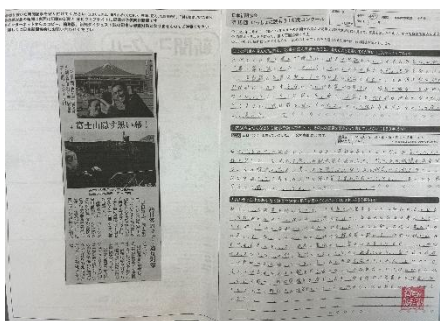
3. 授業実践

今年度行った実践事例の中から、次の事例を取り上げて紹介する。

(1) 3年生：国語科「論理的に読む」の発展教材として

新聞の切り抜きと「いっしょに読もう！新聞コンクール」の取り組み（9月）

過去1年分の新聞の中から自分の気になる記事を切り抜いて読む活動を行った。自分で必要な情報収集を行い、情報を読み取る力と自分の考えを伝える力の育成を目指した。



(成果)

3年生は、前年度「新聞の読み比べ」や「切り抜きコンクール」へのグループ参加を経験しており、自分で気になった記事を探し出すことが容易に感じた者が多かった。

記事を論理的に読むことに注意しながら自分の考えを持ち、友だちや家族にも見てもらった。他者の意見を踏まえて自分の考えを書く体験は、「自分の考えの広がり」に繋がり、興味関心を持って意欲的に取り組む姿が見られた。

また、普段文章を書くことを苦手としている生徒もスポーツ関連の好きな記事を切り抜き、友だちに意見を聞いて、少しずつ自分の文章を書くことができた。

(2) 1年生：国語教科書教材を学習後の発展教材として（9月）

「私のタンポポ研究」（東京書籍1年）を学習後に新聞から情報を読み取る力の育成を目指した。

(成果)

教科書では、実験・観察の結果をグラフにしたものを読み取る学習をしてきた。新聞からは、アンケートをグラフにしたものから全体の意見や自分の考えをまとめる学習を取り入れた。グラフを読み取る経験が実生活でも生かされる例を実感させることができた。

(3) 3年生：社会科公民分野：第2章「民主政治」の資料として（10月）

第2章「民主政治」～選挙制度とその課題・国会の役割と仕組み～の既習後、衆議院選挙が行われるときに、各政党代表のTV対談を視聴させ、新聞の選挙公約の記事を利用して生徒に実際に投票をさせ当落を予想させた。選挙公約から、自分なりに投票理由を考えて、模擬選挙を投票日前に行った。

(成果)

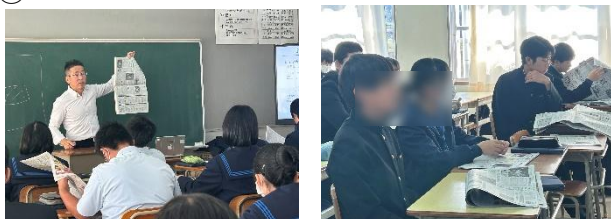
生徒は資料を基に様々な理由を自分なりに考えることができた。よいタイミングで時事問題を扱うことができ充実した活動になった。

(4) 3年生:国語科「編集して伝えよう」・総合的な学習の時間「福祉の視点から、防災について考えよう～自分の地域を見つめよう～」

国語科の既習事項を利用して、総合的な学習の時間で壁新聞を作成した。

① 出前授業「新聞の書き方講座」(11月)

②



(生徒の感想)

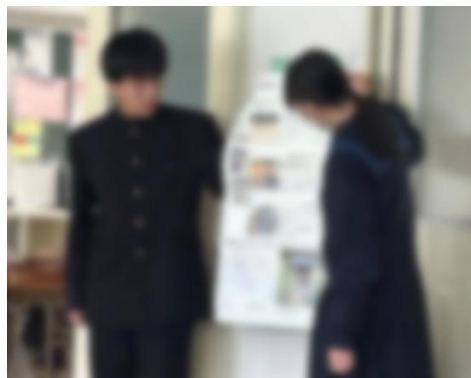
- ・見出しの書き方が壁新聞にも利用できると感じた。記事の書き方が逆三角形になっていると知った。
- ・記事に載せる写真の置き場所やレイアウトの方法を知ることができ、自分でも書いてみたいと思った。
- ・新聞の読み方も習うことができ、どこを中心に読めば良いかが分かった。
- ・今までニュースはテレビやスマホをみていたからこれからは新聞でも読んでみたいと思った。

②壁新聞の作成(11～12月)

卒業生が調べた避難場所についての資料を活用し自分たちでも取材をして、「福祉の視点」から考え直して壁新聞を作成した。



③壁新聞の発表会(12月)



(生徒の感想)

- ・調べたまま終わるのはもったいないから、地域に伝えていきたい。
- ・みんなの前で発表することと自分で課題を考えることを学んだ。
- ・調べたり調査したりして、まとめられるようになった。
- ・みんなにわかりやすく伝えるのは難しい。

(成果)

- ・新聞の読み方や書き方を事前に学習していたので、壁新聞の作成がスムーズにできた。
- ・卒業生の資料を活用し、さらに自分たちに必要な情報の収集や実際に取材するなど、多くの資料を集めることができた。
- ・多くの情報から伝えたいことを絞って、わかりやすく伝えるにはどうすればよいかという視点を持つことができた。

（５）３年生：１分間スピーチ（１１月～） 出前授業で学んだことを生かして新聞を読む

帰りの学活の中で、日直がその日に図書室や職員室前廊下で読んだ新聞記事から自分の感想をまとめて、１分間スピーチする活動を実施した。



（成果）

- ・日頃、自分から新聞に触れるが少ない生徒も自分から図書室にむかうことができた。
- ・友だちと一緒に新聞を読み、記事を探して話し合う姿が見られるようになった。
- ・短い時間で①新聞社②記事の見出し③内容④自分の感想を伝えられるように、発表する内容をまとめようとする姿が見られた。

（６）１年生：国語科の授業：阪神淡路大震災の被害資料と体験談（１月）

（成果）

資料の具体的な数字から、被害の大きさを実感させることができた。体験談を紹介することで、命の大切さや立ち直りを目指す人間の強さなどを感じさせることができた。また、避難所

での中高生の活躍を知り、「もしものことがあったら、自分も助ける側の人になりたい」という感想を書いた生徒もいた。新聞記事を題材として、自分の考えを考えさせることができた。

４．今後の予定（２月～）

○２年生国語科：新聞の読み比べ

○３年生数学科：標本調査

○３年生理科：地球の明るい未来のために
（環境問題を扱うときの資料として）

５．実践を終えての成果と課題

（今年度の実践テーマに対する成果と課題）

２学期末の生徒による学校評価アンケートでは、「授業では、問題解決に必要なヒントを問題文や資料集・グラフ・図などから読み取ることができた」という項目に対して

- ①あてはまる 53.0%
- ②ややあてはまる 43.0%
- ③あまりあてはまらない 3.4%
- ④あてはまらない 0.7%

「授業や学校行事において、自分の考えを相手や仲間に伝えることができた」という項目では

- ①あてはまる 63.1%
- ②ややあてはまる 28.9%
- ③あまりあてはまらない 7.4%
- ④あてはまらない 0.7%

という結果であった。

今年度の実践テーマ『情報を読み取る力と自分の考えを伝える力の育成』において、生徒は力がついたと感じている者が多い。また、今年度の学力調査の中では「書くこと」のポイントは全国平均より高かった。

しかし、「情報の扱い方に関する事項」のポイントが低く、まだ十分だとは言えない。

そこで、来年度も各教科の授業の中の発展的な教材として、NIEの活用に取り組んでいきたい。

進路学習に活かす NIE

私立大分高等学校

(1) 序文

NIE 実践は、本校における特進選抜コース、特進コース（以下、合わせて「特進」と呼ぶ）を対象に行うものとする。特進には148名（1年生41名、2年生51名、3年生56名）在籍しており、少人数のクラス編成によるきめ細やかな指導を行うことで難関国立大学や有名私立大学への進学を目指している。

特進の生徒は大学進学を目標としており、それぞれに進路希望を決めてはいるが、その学問分野について詳しいわけではない。例えば薬学部に進学したいと考えていても、その生徒が薬学についての最新の動向や開発、研究について知っていることは少ない。大学で専門的に学びたい学問分野については自分から調べたり研究したりしていること望ましいが、そのような生徒はほとんどいないのが現状である。その原因として、自分が進学を希望する学問分野に対して憧れを持つことに留まり、より深く調べてみる「きっかけ」を持てずにいることがあると考えた。

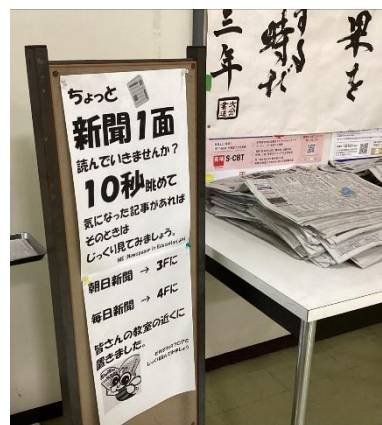
本実践は、その「きっかけ」となるように、NIE 教育を活用していくものとする。

NIE コーナーの新聞を読んだことがありますか？

(2) 学校としての取り組み

① NIE コーナーの設置

特進校舎には昇降口に広



めのフロアがあり、長机と椅子が置いてある。昼休みや休み時間の憩いの場となっていたり、放課後には保護者の迎えを待つ生徒がいたりする。

その一角に新聞を置き、自由に読めるようにしている。置いているだけではあるが、ふと新聞が目に入った生徒が、そこに座り、新聞を開く姿や記事について友人同士で話す姿が見られた。

生徒より「昇降口だけではなく、教室近くにも置いてほしい」という要望があったため、各階にも NIE コーナーを設置した。また「新聞は読んでみようと思っても、量が多くて読めない」という声もあり、NIE コーナーに「10秒だけ新聞を眺めてみよう」というポスターを作成し貼った。10秒眺めて見出しを読み、

気になる見出しがあれば記事まで読んでみてほしいという趣旨を伝えたものである。そのポスターを掲示して

以降、NIE コーナーに立ち止まって1面だけ眺めてみたり、そのまま新聞を読み始めたりする生徒が多く見られるようになった。

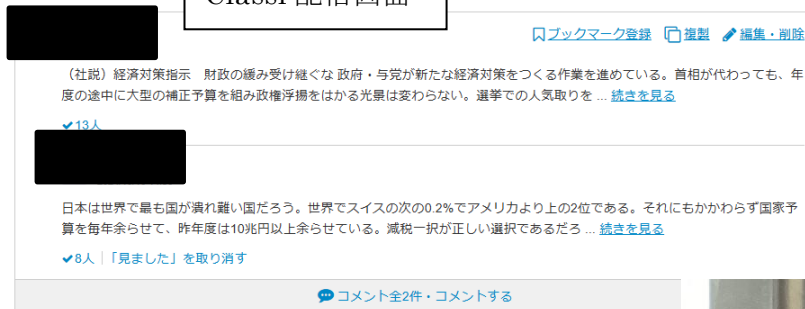
アンケートからも、7割の生徒が新聞に触れたことが伺える。

② 社説の毎日配信

本校では生徒への連絡として **classi** というアプリを使用している。それを活用し、毎朝、社説を生徒に向けて配信した。**classi** には既読確認機能として「見ました」ボタンがあり、生徒がそこを押すことで、教員側がその配信を誰が見たのかを把握することができる仕組みである。それを活用し、配信初日に“読んだ生徒は「見ました」を押してほしい”ということを生徒にお願いした。それにより、日々、読んだ生徒数を確認しながら配信することができた。

社説は各新聞社が **HP** に上げているものを活用し、新聞各社の中から担当がその日に読んでみてほしいものを選んだ。また同じ内容に対する数社の読み比べを意図した配信も行った。さらに今年度はコメント欄も開放し、その記事に対して自由にコメントできるようにもした。

Classi 配信画面



③ 新聞切り抜きを掲示板へ

本校ではポスターやネット記事等と一緒に掲示板に新聞の切り抜きを貼るなど、担当教員が掲示物を工夫し、様々なことに興味を持たせるよう活用している。

(3) 実践事例

① 時事ワークシート 対象：全員

朝日新聞社が販売している時事ワークシートを活用し、毎週土曜日の朝の時間を利用し

て取り組んでいる。金曜日に配布された記事を各自予め読んでおき、土曜日の朝にワークシートに取り組む。

内容としては、記事の要約文の穴埋め、キーワードの書き抜き、設定されたテーマに対する意見文を100字程度で書くものとなっている。書いた後は教師が採点・添削し、返却する。新聞記事については理系/文系それぞれの生徒が興味を持ちそうな記事を偏らないよう、生徒にとっても読みやすく興味を持ちやすいものを選んでいく。またこれは小論文対策としても有効である。

昨年度より、書き終わった後に班の人と意見を共有する時間を取り入れた。同じ記事を読み同じテーマに対しての、友達と自分の意見の相違を知ること、考えを深めることを目的としたものである。

共有する方法は担任に任せたと「近くの人と内容について話していた」クラスや「ワークシートを隣の席の人と交換して読み比べをした」クラス等、方法は様々であったがどのクラスでも共有する時間を取り入れることができた。

内容について近くの人と話す時間を設けているクラスを見学させていただいたところ、活発な意見交換が行われている様子が伺えた。



② 集団討

論対策に新聞を活用

対 象：推薦入試の受験を希望し、集団討論が必要となる生徒（高3）

実施期間：10月～11月

2学期より
放課後の時間
帯を活用し、推
薦入試対策と
しての面接練
習と同時に行
われるのが集



団討論対策である。この集団討論の練習に、
新聞記事を活用した。

(i) 根拠として新聞記事の紹介

“キャッシュレス決済”をテーマにしたと
きの話である。まだまだ現金支払いの多い生
徒にとっては実用的ではないという否定的な
意見の多い討論となった。そこで担当より記
事を活用し、キャッシュレス支払いを利用し
ている人が増えていることや、支払い方法と
してキャッシュレス決済ができる機材を取り
入れる会社が増えている現状を紹介した。

生徒にとって「目に見える現金が安心する」
という意見はありながらも、時代の変化を感
じることで自身の当たり前を見直すきっかけ
となり、それ以降の練習では、テーマの出題
意図や最近のニュースや動向などを意識した
うえで討論をするようになった。

(ii) 読み込み型討論のテーマとしての新 聞記事の提示

“ベーシックインカム”をテーマにしたと
きの話である。ベーシックインカムに関する
新聞記事を提示し、その記事をテーマとした
討論をした。制限時間を設けた中での読み取
りは難しく、ベーシックインカムが何かわか
らない状態では討論も深めることができな
かった。終了後の講評にて教師とともに丁寧
に記事の読み取りをしていく中で、ベーシッ
クインカムについての仕組みや懸念事項を理
解することができた。記事を丁寧に読み込み、
十分に理解して初めて討論に臨めることを再

確認することができた。

(iii) 参考資料としての新聞記事の提示

“消費税”をテーマにした時の話である。
参考資料として渡した上で討論をした。生徒
にとって馴染みの深い消費税についてのテー
マであり、なんとなくは知っていたとのこと。
しかし新聞記事を事前に読むことで、消費税
に関する経済との関わりや社会保険料等との
関係をきちんと理解したうえで討論に臨むこ
とができた。

実際に大学の推薦入試の集団討論でも資料
として新聞記事が用いられており、今回の集
団討論対策に新聞記事を活用したことは有効
であった。

③ 分高生のニュースそうだったのか

対 象：高2

実施期間：11月～1月

探究の時間を活用して、進路探究学習に新
聞を活用した実践を行った。志望学部ごとに
グループ分けをし、それぞれのグループで記
事を1～2つ決め、その内容の解説授業を1
年生に行うというものである。

記事を探す中
で自分に志望学
問分野における
最新のニュース
や動向を知り解
説授業のための
準備を行う中で

記事を探している様子



より専門性のある知識を持つことができるこ
と、さらには自分自身が授業をすることを想
定し「正しく」「わかりやすく」授業ができる
ように準備する中で理解深まることをねらい
とした。また、この取り組みが1年生の進路
選択にも活かされるよう期待している。

【内容に対する感想】

・自分自身、名前しか聞いたことのない iPS

細胞について深く知ることができました。

自分は物理選択ですが、医療の道に進むには生物が不可欠であり、生物選択の2人が丁寧に解説してくれて、大学に入ってから学ぶ生物が楽しみになりました。

・よくAIを活用しようと聞くが、AIがどのような仕組みで動いているのか知るきっかけになった。既存のAIをただ活用するのではなく、AIの仕組みが分かったうえで上手く活用できるようになっていきたい。

・現在の日本の経済状況を詳しく知ることができた。政治のニュースを見るときに流れてくる言葉の意味がわかるようになり、より興味を持ってニュースを見るようになった。

【新聞に対する感想】

＜興味のある記事をじっくり読む＞

・普段、新聞をじっくり読む機会がほとんどないので良い時間になった。興味がある分野の記事は思ったよりも読みやすかった。

・普段読まない新聞をじっくり読むのは辛いところもあったが得意な分野なので楽しめた。

・大量にある情報の中から、自分の興味がある記事を深掘りするとこんなにも楽しいんだなと実感しました。

・新聞記事ひとつからたくさんの話に派生できることがとても面白く感じた。

＜情報収集として＞

・普段新聞を読まず、テレビやネットのニュースなどで情報を手に入れることがほとんどなので、新聞を読んで自分で考えてみることは大切だと思いました。

・詳しく知りたい！と思う事をじっくり調べて、説明できるくらいまでになるというのが楽しかった。普段の生活でも、目に留まった記事だけでも読んでみようかなと思った。

＜新聞について＞

・普段新聞を読まないなので、新聞には色々な種類の記事があって、短すぎず長すぎない文で書かれていることに改めて気づくことができた。

・さまざまな視点から考えるきっかけになった。

・新聞の記事は短い時間で内容がわかるようにまとめられていることがわかりました。

（４）終わりに

アンケートより、2年生の9割は新聞の楽しさを感じることができたことがわかった。2年生にとってはこれからが進路の決定における大事な時期なので、この経験が活かされてほしいと願う。

また、昨年度からNIE実践をしているが、その実践を志望理由書作成や面接対策に活かしている3年生が多くいた。生徒が志望動機に活かすことができおり、進路について考える良いきっかけになったことが伺える。

昨年度から2年間の実践を通じて、NIEが進路探究により良い影響を与えることがわかった。これらも学校全体で新聞に関わる取り組みを増やして、生徒自身が志望学問分野の知見を深めるきっかけを作っていきたい。



選択肢1 37人(88.1%) 感じた
選択肢2 5人(11.9%) わからない

新聞を読むことの楽しさを感じることができましたか？

新聞を開き、未来を拓く

～新聞を通して社会を知り、主体的に探究する生徒の育成に向けて～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 西 さおり

(1)はじめに

本校は「舞鶴魂『しまれ、がんばれ、ねばれ、おしきれ』を体現する」を学校教育目標として、「探究に向けた強固な学びの基盤づくり」「自ら問いを立てて、探究する力の育成」「協働性、粘り強く取り組む態度の向上」をめざして教育活動を行っている。今年度の重点目標の1つとして「『探究心』の向上」が掲げられており、NIE 実践指定を生かした新聞・図書の活用による幅広い教養や奥深い専門性を育成するため、実社会との接点を重視した教科学習を推進すべく、昨年度は総務分掌であった図書館活用・NIE 教育推進班が、今年度から授業改善推進分掌の中に再配置された。

実践テーマ

新聞を開き、未来を拓く～新聞を通して社会を知り、主体的に課題を発見して解決の方策を考えようとする生徒の育成を図る～

NIE の目標

- ・実社会での諸現象や諸課題について考察するために必要な知識を身につける。
- ・多角的、複合的に事象を捉え、主体的に課題を発見して解決方策を考え、表現する力を身につける。
- ・課題解決や新たな価値の創造に積極的に挑みよりよい社会を実現しようとする態度を養う。

(2)学校全体としての取り組み

今年度、学校全体（分掌）としては以下の取り組みを実践した。

- ①「新聞を読もう」コーナーの各階設置
- ②「新聞アーカイブ」コーナーの設置
- ③「図書委員が選ぶ今週の気になる記事」コーナーおよび「授業実践紹介」コーナー

上記①～③の具体的内容は以下の通りである。

①「新聞を読もう」コーナー

昨年度より実践を始めたもので、1～3年の教室が配置されている各階に設置している。

1、2年生の階には2紙、3年生の階には3紙を平置きしており、1面が目につきやすく、手に取って読みやすいように工夫している。3年生のコーナーの新聞は次の日、3年私立文系型クラスに運ばれ、クラスでのNIE活動に活用されている。



②「新聞アーカイブ」の設置

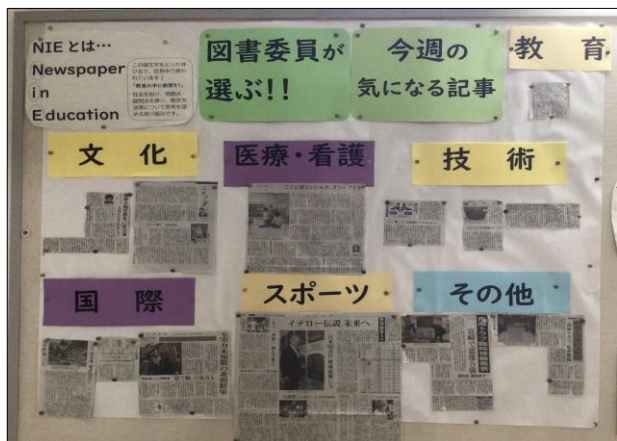
図書館に設置しているコーナーで、テーマごとに新聞の切り抜きのスクラップを作成している。継続した取り組みであり、生徒の興味関心がある調べたい分野の記事を、時系列を追って体系的に読むことができるため、進路研究や小論文のテーマの理解の深化、探究の時間での活用がなされている。



③「図書委員が選ぶ今週の気になる記事」のコーナーおよび「授業実践紹介」コーナー

今年度2学期より始めた実践で多くの生徒が目にする機会が多い管理棟1階から2階に上の踊り場に設置。図書委員がその週の気になる記事を毎週金曜日に選んで掲示している。分野ごとに記事を分類して、コーナーの前を通る生徒が自分の進路や興味関心がある記事を読みやすくなるよう工夫した。

記事を選ぶ図書委員たちも、和気あいあいと楽しそうに選んでおり、選んだ記事について意見交換をしている姿も見られ、選定する生徒たちにとっても有益な取り組みだと捉えている。



同じコーナーに授業実践紹介コーナーを設置。2学期に「図書委員が選ぶ今週の気になる記事」コーナーが開始されるまでこのコーナーのメインに、2学期以降は一面に設置した。同学年の生徒だけではなく、下級生が読み込んでいる姿がしばしば見られたのは、次年度の学習活動への興味によるものではないか。よい刺激となっているのを実感した。

(3)実践事例

今年度は実践報告者の授業において学期に一度NIE活動を入れて学習内容の深化に活かすこととして実践してきた。以下、その内容である。なお、実践対象および教科・科目はすべて2年生・国語・「論理国語」（教科書：大修館書店『論理国語』）で、★印がNIE活動である。

①概要

《1学期》

【実践例1】

単元名：「現在を振り返り、世界との向き合い方を確認する」〔読むこと〕

学習材：宇野常寛「世界を広げる『批評』の言葉」

学習内容：

①教科書本文を読み「新しい『書く』『読む』力」とはどのようなものなのか、「批評」とはどのようなものなのかを押さえる。

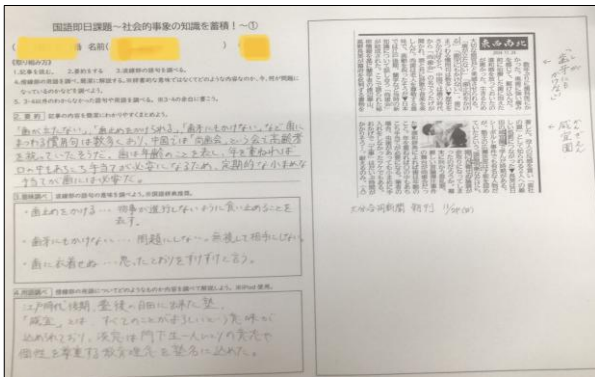
②本文で押さえた内容を実践。★

- 1 新聞記事を批評につなげる「共感の外側」の事実や考え方に線を引きながら読む。
- 2 記事を読んで疑問に思ったことから新たな問いを立てる。
- 3 新たな問いについて調べて分析考察する。
- 4 相互で読みあい意見交換。

《生徒の感想（代表的なものを抜粋）》

・批評による自分の世界の広げ方を実践できてとても面白かった。

- ・一つのことからより詳しく調べることができ、実際に面接や小論文でも役に立ちそう。



【実践例2】

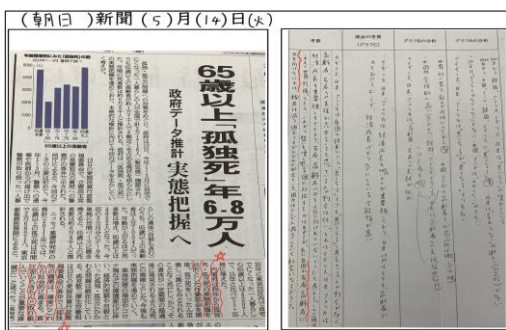
単元名：情報を分析して「今後の社会」を考える。〔書くこと〕

学習材：広井良典「コミュニティから見た日本」

- ①筆者が考察する「日本の現在の状況」の認識について理解する。
- ②関連する図を筆者がどのように分析し、推論を述べているか理解して、図表の分析考察、それを客観的根拠として入れた文章の作成方法について理解する。
- ③新しいグラフ（日本財団「18歳意識調査：国や社会に対する意識」2024年）を分析して、それを根拠に「日本社会の今後の展望」を推論・考察する。
- ④自分の考察した内容に関連する記事を探して社会的事例と結びつける。★

《生徒の感想（代表的なものを抜粋）》

- ・様々な観点から日本社会について考えることができて面白かった。
- ・これまで自分が考えていた日本社会の現状とは違う面がわかってよかった。



《2学期》

【実践例3】

単元名：多面的・多角的な視点からの分析により、ものの見方を広げる。〔書くこと〕

学習材：今井むつみ「スキーマと記憶」

- ①「スキーマ」とは何かについてまとめる。
- ②「私たちは、物事を客観的に記憶できない」理由を押さえる。
- ③新聞記事を読み、記憶しやすい記事とそうでない記事の違いを体感する。★
- ④最も記憶しにくかった記事に関して調べ、関連する記事を見つけ、要約および用語の解説作成。グループ内で講評。★
- ⑤自分の進路に関する「スキーマ」を増やすための切り抜き新聞作成、クラスで共有。★



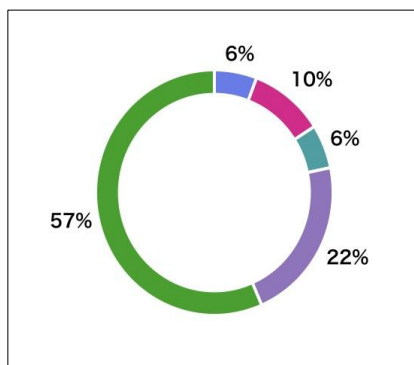
《生徒の感想（代表的なものを抜粋）》

- ・自分で新聞を作る楽しさが新鮮だった。
- ・自分の将来に関する興味関心のあることに集中できて楽しんで取り組めた。
- ・気になる分野の新聞記事を自分なりに多角的にとらえて見やすくまとめることでより理解を深めることができた。

②生徒アンケートの結果・生徒の感想

これまでの授業における NIE 活動および夏休みに取り組んだ「いっしょに読もう！新聞コンクール」に関するアンケートを取った。

Q. 2 年生の「論理国語」で取り組んだ NIE 活動で最もよかったと思うものを選んでください。



「世界が広がる『批評』の言葉」 6%

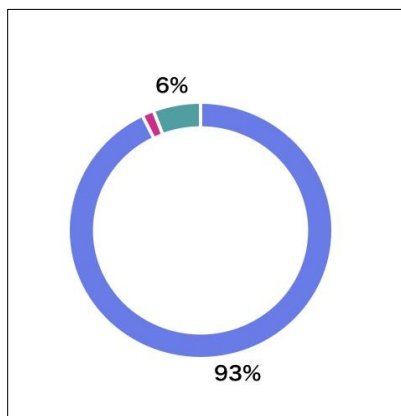
「いっしょに読もう！新聞コンクール」 10%

「コミュニティから見た日本」 6%

「スキーマと記憶」 22%

「切り抜き新聞」 57%

Q. 新聞活用は利点があると思いますか。



思う 93% 思わない 1% わからない 6%

Q. NIE 活動で取り組んでみたいことがあれば教えてください。

- ・意見交換や批評の活動。またやりたい。
- ・一から自分たちで取材して新聞を作りたい。
- ・新聞ごとの紙面や内容の特徴を比較。
- ・記事の分野ごとにディスカッション。
- ・自分の気になる記事を集めてパワーポイントを作成して発表。
- ・グループでするタイプの活動。
- ・新聞記事に対する批評を行いメディアリテラシーについて学ぶ。

③実践を終えての成果と課題

昨年度の反省のもと、今年度は年間計画を立て、学期に一度は必ず NIE 活動を授業内容理解の深化や多角的視野の獲得、興味の拡張のために入れることとした。生徒の感想や取り組みの様子を見ても内容のより深い理解につながっていて、かつ社会的事象と関連させて考える力や視野の拡大につながっていたことを実感している。課題としては時間の確保と配分である。またアンケート結果に現れているように自分の興味関心のある記事を読みたい生徒の思いと、視野をより広げさせる取り組みとの両立を図ることも課題である。一層効果的な方法を模索していきたい。

(4)今後の課題

今年度は昨年度の反省を踏まえ、生徒の自主的な活動を増やすことと、年間通して生徒が新聞に触れることができるように工夫することを意識して実践してきた。NIE コーナーの一面に図書委員のコーナーを設け、図書委員長を中心に活動できているのはよかったが、自主的、積極的に新聞を活用して社会に触れる取り組みが年間を通してできていたかという点と不十分である。来年度は新しい視点で NIE コーナーをはじめとする取り組みを見直し、よりよい活動にしていきたい。

2024 年度大分県N I E 実践指定校

校種	学 校	学 校 長	実践代表者	指 定 年 度
小学校	中津市立小楠小学校	高山 ゆかり	岩男 拓哉	2023
	大分市立大在小学校	小野 征司	平山 立哉	2024
中学校	別府市立別府西中学校	佐藤 裕一	塚田 祥平	2024
	佐伯市立佐伯南中学校	小野 寛也	渡辺 容子	2024
	中津市立東中津中学校	田邊 玲子	田邊 玲子	2024
	日田市立前津江中学校	中野 照行	吉永 奏	2022
高校	大分県立大分舞鶴高等学校	加藤 寛章	西 さおり	2015
	大分高等学校	小山 統之		2023

2024 年度大分県N I E 推進協議会の活動

1 学期 ～夏休み	第 15 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」募集	9／7	第 128 回N I E 実践研究会 第 41 回事務局会
4／13	第 127 回N I E 実践研究会 第 39 回事務局会	9／9	第 15 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」出品締め切り
5／11	第 40 回実践研究会事務局会	12／10	第 15 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」地域独自表彰発表
6／18	県N I E 推進協議会総会	12／14	N I E アドバイザー会議
7／13	N I E アドバイザー会議	2／8	第 9 回N I E 子ども会議（第 129 回 N I E 実践研究会）第 42 回事務局 会
8／1.2	第 29 回N I E 全国大会京都大会 （京都府京都市）	2／18	県N I E 実践報告会
8／22	県N I E 実践懇談会		

■県 NIE 推進協議会【懇談会】

実践指定校代表者と協議会役員・委員、日本新聞協会認定アドバイザーらによる懇談会が8月22日、大分市の大分合同新聞社であった。指定継続校は取り組みの状況や新たな計画、新規校は取り組み方針などを発表した。引き続き、今回初めてグループ討議を導入。小中高でテーブルに分かれ、新聞・教育関係の役員・委員らと実践者が活発な意見交換を行った。一方的な報告にならず、実践のヒントが得られる有意義な会となった。



■県 NIE 実践研究会【全国大会京都大会報告】

第128回実践研究会が9月7日、大分合同新聞社であった。8月1、2日に開かれた第29回NIE全国大会京都大会に参加した教諭らからの報告があった。「探究と対話を深めるNIE～デジタル・多様性社会の学びに生かす」をテーマにした全国大会について、研究会の平山立哉代表（大分市大在小学校教頭）や永松芳恵・臼杵市南中学校校長らが話した。

2025年の全国大会は神戸市で7月31日、8月1日に開かれる。テーマは「時代を読み解き、いのちを守るNIE」。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え、生きる力をどう育んでいくかなどを考える。

■県 NIE 実践研究会【第9回 NIE 子ども会議】

小中学生と高校生が新聞を活用した授業について話し合う「第9回NIE子ども会議」が2月8日、大分合同新聞社であった。児童生徒5人が登壇し、「心に残ったNIE授業や活動について」「NIE活動の中で身に付いたこと」などについて発表した。「新聞には家の近くでの出来事もよく載っている。地元への愛着が湧いてくる」「新聞を読んで自分の意見を書くことを繰り返した。おかげで国語が好きになった」など話した。司会は日本新聞協会認定アドバイザーの永松芳恵・臼杵市南中学校校長を務めた。



大分県N I E推進協議会 会則

- 第1条（名称） 本会は、大分県N I E推進協議会と称する。
- 第2条（目的） 本会は教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して教育内容を豊かにするとともに、情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
○N I E実践指定校・実践者を選定し、日本新聞協会に推薦
○N I E実践指定校・実践者の支援、助成
○N I Eに関する研究会の開催、実践報告書の作成
○N I Eに関する普及、啓発活動
○その他、本会の目的達成上必要と認めた事項
- 第4条（会員） 本会は本会の目的に賛同する次に掲げる者で構成する。
○大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県立学校長協会、大分県中学校長会、大分県小学校長会、大分県私立中学高等学校協会の各代表
○N I E実践指定校の代表
○大分県報道責任者会加盟の新聞・通信8社（朝日、大分合同、共同通信、時事通信、西日本、日経、毎日、読売）の各代表
○その他、本会で必要と認める団体・個人
- 第5条（顧問） 本会に顧問を置くことができる。顧問は本会の目的達成のため助言をする。
- 第6条（役員） 本会は次の役員を置き、総会において会員の中から互選する。
○会長 1人
○副会長 若干名
○委員 若干名
○監査 2人

役員の任務は次の通りとする。

○会長は本会を代表し、会務を総括する

○副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは職務を代行する

○委員は会務を処理する

○監査は会計を監査する

役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第7条（総会）

本会は年1回定期総会を開く。

○総会は会長が招集し議長となり、事業計画、運営に関することを決定する

○その他会長または会員の多数が必要と認めた時に、臨時総会を開くことができる

第8条（委員会）

委員は必要に応じ委員会を開く。委員会は事業計画の遂行に必要な事項を協議、決定する。

第9条（経費）

本会の運営に関する経費は、加盟する新聞・通信社の会費および個人・団体からの補助金、その他の収入を充てる。会費は新聞社が年額6万円、通信社が3万円とする。

第10条（事務局）

本会の事務局を大分合同新聞社内に置く。

第11条（実践研究会）

NIE推進のためのワーキンググループとして小中学校、高校、特別支援学校の教員等による大分県NIE実践研究会を置く。

第12条（事業年度）

本会の事業年度は毎年4月1日から、翌年3月31日までとする。

第13条（補則）

この会則に定めるもののほか、本会に必要な事項は別に定める。

付則
改定

本会則は2010年6月4日から実施する。

2013年6月11日

2015年6月22日

2022年6月3日

2024 年度大分県N I E 推進協議会役員等

<顧問>	山田 雅文	大分県教育長
	栗井 明彦	大分市教育長
<会長>	堀 泰樹	大分大学名誉教授
<副会長>	五嶋 宏治	大分県立芸術緑丘高等学校長(県立学校長協会代表)
	衛藤 俊明	大分市立判田小学校長(県小学校長会代表)
	姫野 宏明	大分市立植田東中学校長(県中学校長会代表)
	小山 康直	大分高等学校理事長 (県私立中学高等学校協会長)
	加藤 寛章	大分県立大分舞鶴高等学校長(実践指定校代表)
	下川 宏樹	大分合同新聞社上席執行役員編集局長 (新聞・通信社代表)

<委員>	小野 和正	大分県教育庁高校教育課長
	小野 勇一	大分県教育庁義務教育課長兼幼児教育センター所長
	平田 敬二	大分市教育委員会学校教育課長
	中野 剛史	西日本新聞社大分支局長 (監査)
	仲村 宗則	日本経済新聞社大分支局長 (監査)
	久保田修寿	毎日新聞社大分支局長
	佐々木浩人	読売新聞社大分支局長
	高嶋 健	朝日新聞社大分総局長
	武田 智子	共同通信社大分支局長
	前田 知宏	時事通信社大分支局長

<N I Eアドバイザー>

永松 芳恵	臼杵市立南中学校校長
平山 立哉	大分市立大在小学校教頭
安東 浩子	豊後高田市立都甲中学校教頭
佐藤美登里	元教諭
田邊 玲子	中津市立東中津中学校校長
佐田 香織	佐伯市立彦陽中学校教頭
佐藤由美子	元小学校・中学校校長
塩川 美紀	元教諭
小坂 吏香	大分県立佐伯豊南高等学校教諭

<事務局>	統 括	佐藤 栄宏	大分合同新聞社編集局G X編集部部长
	事務局長	三股 秀明	〃 G X編集部参事
	事務局員	渡辺 美加	〃 G X編集部
	〃	鈴木 幸一郎	〃 G X編集部
	〃	松原 佐江子	〃 G X編集部
	〃	小代 純子	〃 G X編集部

＜発行＞2025 年 4 月

大分県NIE推進協議会事務局

〒870-8605 大分市府内町 3-9-15(大分合同新聞社内)

☎097-538-9729 fax097-538-9810 ✉nie@oita-press.co.jp